

特報部

FAX 03 (3595) 6911 Eメール tokuho@chunichi.co.jp

原発の再稼働に必要なストレステスト(安全評価)の報告書を審査する経済産業省原子力安全・保安院の専門家会議で、原子力業界から寄付を受けていた一部委員に批判が集ま

っている。原発に批判的な委員は「利益相反だ」と辞任要求を突きつけているが、保安院は「問題なし」の姿勢を崩さない。

(佐藤圭)

ストレステスト専門家会議紛糾

原発業界から
2委員に寄付

保安院や一部報道によれば、ストレステストを扱う専門家会議のメンバー11人のうち、岡本孝司・東京大教授が原発メーカーの三菱重工から二百万円、山口彰・大阪大大学院教授が三菱重工グループのニュークリア・デベロップメント社から三千二百八十五万円の寄付を受けていた。岡本氏は三菱重工出身で、会議では司会進行役を務めている。

「利益相反だ」
辞任要求出

昨年十二月二十二日の会議で、井野博満東大名誉教授が、山口氏について「報道によれば、ニュークリア社から三千二百八十五万円の研究費を受け取っている。ニューク



専門家会議の委員の中立性について、ただした質問書と保安院側の回答

「保安院は再稼働ありき」

「ニュースの追跡」

「利益相反の事例に該当する可能性があり、委

委員の中立性をめぐり紛糾した専門家会議＝6日、経済産業省本館で

「岡本氏と同じ見解だ。相反には当たらない。相反には当たらない。井野、後藤両氏は「保